

Bonjour, nouvelle vague!



古藤田 眞和

山梨大学医学部附属病院麻酔科

卒後7年目の若輩者ですが、これまでの自身の体験を少し振り返りたいと思います。何科を専門にするにせよ医療においてA(気道)B(呼吸)C(循環)は基本かつ最重要だと考えています。研修医の時、このABCに日々関わる仕事がしたいと思い麻酔科に入局を決めました。入局後の2年間は手術麻酔を中心として救急・集中治療・緩和ケア・外来診療などを勉強させていただきました。それぞれの分野において経験豊富な上級医に熱心に指導していただき、非常に勉強になりました。この頃、特に心臓麻酔に興味を持ち日本周術期経食道心エコー(JB-POT)の資格を得ました。卒後5年目からは関連病院である静岡県立こども病院で小児麻酔の研修をさせていただきました。小児専門病院ならではの症例や手術も多く経験することができ、大変貴重な1年間になりました。またこの間に米国心臓超音波専門医認定委員会(NBE)の経食道心エコーの資格も取ることができ、日々の症例と併せてとても勉強になりました。6年目からは再び大学に戻り、手術麻酔とウサギを用いた脳循環の研究に携わっています。

私の勤める山梨大学医学部麻酔科の紹介ですが、附属病院は606床の総合病院で、平成23年度は年間の全手術件数5,000例、麻酔科管理手術症例は約3,650例、毎日8列稼働となっています。毎朝担当症例の準備の後、7時50分からカンファレンス、8時30分入室となっています。最近では初期および後期研修医の教育に更に力を入れており、金曜早朝・夕方・土曜午前には勉強会を開催しています。最新の麻酔器・麻酔チャート(自動記録システム)や電子カルテ、セントラルモニターに加え、麻酔科関連の周辺機器が豊富にあり、全室にVigileoモニター(エドワードライフサイ

エンス)を装備し、全血凝固線溶分析装置ROTEM®(フィンガルリンク)やリアルタイム3次元経食道心エコー図法(3DTEE)などの最新機器が整っているのも魅力のひとつです。また医局員は新人・上級医・教授まで皆仲が良く、とても雰囲気の良い医局だと思います。今年は2月に志賀高原へ医局旅行に行ってきました。仕事・プライベートのon-offがはっきりできるのも麻酔科の魅力であり、offの日は趣味に費やし、泳ぎに行ったり雪山に行ったりピアノを弾いたりとする自由な時間を満喫しています。

研修医の時に考えていたよりも麻酔は勉強すればするほど奥が深く、単に寝かせて起こすものではなく、周術期の総合診療医として全身管理を行うためには日々相当の勉強と努力が必要だと実感しています。勉強しなければいけないことは山積みで、未熟さや知識のなさを痛感することも多々ありますが、このような恵まれた環境の中で勉強できることに感謝し、今後も精進したいと思います。

プロフィール

古藤田 眞和 山梨大学医学部附属病院麻酔科
Masakazu Kotoda

2006年3月：山梨大学医学部卒業

同年4月：山梨大学医学部附属病院 臨床研修医

2008年4月：山梨大学医学部附属病院
麻酔科、救急部

2010年7月：静岡県立こども病院麻酔科

2011年7月：山梨大学医学部附属病院
麻酔科

趣味・特技：水泳、スノーボード、ピアノ

